

FUJI SPEEDWAY ドリフト! バッシュ!!



Rd.7 FUJI

秋が顔をのぞかせ始めた10月初旬、2009年最後のD1グランプリとなる第7・8戦がFUJIスピードウェイサーキットで開催された。“名物”超高速バトル、最終戦では初となる『デュアルファイナルズ』、そしてシリーズチャンピオン争い。これらの要素が複雑に絡み合い、熱い、激しい至高のバトルが繰り広げられた。予選はドライ、1回戦ウェットからハーフウェット、追走戦ドライ。路面までもがバラエティに富み、多くの選手が翻弄されるなか、GOODYEAR Racingの手塚選手、時田選手、高橋選手は安定した走りを見せ、舞台を追走戦に移した。

【シリーズチャンピオンに王手!? 手塚選手】

第7戦、ポイントリーダーとして乗り込んだ手塚選手は2位に12ポイントの差をつけているが、これは「差」と呼べるものではない。上位選手がひしめく団子状態だけに、確実にポイントを積み上げ最終戦へ繋げたいところ。練習走行、単走戦と、プレッシャーを感じさせない豪快かつ大胆な走りを見せ、危なげなく1回戦を通過。当初の作戦では「ベスト4狙い」だったが、この日の状態をみて「優勝狙い」に変更。プレッシャーをもとめせず、あくまでも“攻め”をゆるめない姿はさすがである。ベスト16戦(水畑選手)を制するも続く佐久間選手戦。「攻め」を意識し



すぎたせいか健闘空しくここで敗退。結果は5位に終わった。第7戦終了時点で2位との差が8ポイント。やや詰め寄られた形での第8戦、絶対に落とせない状態での突入となった…。

【ボルテージ最高潮 高橋選手】

ウェット、ハーフウェットを繰り返す厳しい路面状態の中で行われた1回戦単走。各選手の得点が伸び悩む中、高橋選手は1本目から綺麗なライン取りを見せ、16位通過を果たす。今シーズン、追走戦での勝利がないだけに、なんとしてもまず1勝がほしいところ。迎える対戦相手は斉藤太吾選手。チェイサー同士の対決となった。走る前に「ごっさんです」とコメントした斉藤選手に、高橋選手のスイッチがカチリ。後追いの1本目、キッチリ決めて僅かだがアドバンテージを奪う。2本目は、300Rで圧巻の飛び出しを見せ、さらには相手のミスを誘い、

今季初の勝利は、斉藤選手から奪い取った。(高橋選手曰く、「ごっさんがえし。’)続くベスト8の対戦相手は、織戸選手。日頃から交流があり、「いつか対戦したい」と語っていた矢先の対戦となった。互いに力をフルにぶつけ合い、しかし軍配は織戸選手に。高橋選手は最終成績



を8位とし、次の日の最終戦へと臨んだ。

【ゼッケン10を死守 時田選手】

今シーズンはここまで、ベスト16が2回、ベスト8が1回、決勝進出が1回、そしてシード入りと絶好調の時田選手。迎えた第7戦FUJIの1回戦では、悪条件の中、慎重にラインを読み、巧みにマシンを操り、大きなミスもなく1本目からベスト16圏内に。続く2本目もキッチリ決めて、12位通過を果たした。続くベスト16追走戦では川畑真人選手に破れはしたものの、最終成績を11位としゼッケンナンバー10を守り抜いた。「ギリギリシードは緊張する」と語る時田選手の今日1日の走りを見る限り、緊張感が良い方向に作用しているようだ。この調子でいけば、最終戦も大いに期待できる。

